

Contents アーカイブズ

2006.7 Vol.24

特集 世界の公文書館は今

カラーグラビア

目次・まえがき

1. ICA執行委員会開催記念講演会

- ① 世界のアーキビストがやってきた - ICA執行委員会東京会合報告 - / 小原由美子
- ⑩ 世界の公文書館は今 - ICA執行委員会開催記念講演会 -
- ⑪ ICA執行委員会開催記念講演会の開催にあたり / 菊池 光興
- ⑬ ICAの活動について / ローレンツ・ミコレツキー
- ⑯ ジュネーブ市立公文書館 - 新しい組織の起源と発見 - / ディディエ・グランジェ
- ⑭ 記録管理の総合的なアプローチ - アーカイブズ管理業務の健全な基盤 ボツワナの事例 - / ヘレボギル・ハビ
- ⑯ 太平洋島嶼国の公文書館 - 直面する課題 - / セタレキ・タレ
- ⑯ 国立公文書館 - 過去と未来の架け橋 - / ジョアン・ヴァン・アルバダ
- ⑰ 質疑応答

2. 資料の保存

- ⑤ 資料収蔵施設における防災と救済計画 / 尾立 和則

3. 公文書館をめぐる国・地方の動き

- ⑥ 日本銀行金融研究所アーカイブの活動 / 大宮 均
- ⑦ 京都大学大学文書館の紹介 / 清水 善仁
- ⑧ 開館しました！奈良県立図書情報館の紹介 / 乾 聰一郎
- ⑨ 開館二十年を経た北海道立文書館 / 霽原美恵子

4. 国立公文書館ニュース

- ⑩ 平成17年度公文書等移管計画について
- ⑪ 平成17年度公文書館専門職員養成課程修了論文について
- ⑫ 平成17年度公文書館専門職員養成課程修了論文その成果と課題 / 高山 正也
- ⑬ 平成18年度全国公文書館長会議について
- ⑭ 平成18年度全国公文書館長会議における挨拶 / 菊池 光興
- ⑮ 独立行政法人国立公文書館の動き（平成17年12月～平成18年6月）
- ⑯ 国立公文書館夏の企画展のご案内、編集後記

まえがき

世界の公文書館は今

平成18年度の夏号となる第24号は、5月に東京で開催された2006ICA執行委員会東京会合の様子をメインテーマにご紹介させていただくこととしました。国立公文書館として、海外のアーキビストを招聘しての会議をここ数年開催してきました。今年は、ICAの会長、副会長、事務総長のほか、地域支部の議長や専門部会議長など総勢25名の方々を、世界中からお招きしての会合でしたので、この機会に、日本の各公文書館長との交流を実現すべく準備を重ねてきました。こうして、5月25日、港区赤坂の国際交流基金国際会議場において記念講演会「世界の公文書館は今」が開催されました。短い時間ではありましたが、多くのことが学べたように思われます。日本の公文書館がどの方向に進んでいくのか、を読み解くヒントが得られたのではないでしょうか。

日本の公文書館だけがひとり苦しいわけではなく、それぞれ置かれた状況の中で精一杯の取り組みをしている様子が伺えました。それぞれのご報告については、本誌をご覧いただくこととします。本誌は当日のご講演を中心に構成しましたが、発表原稿で補わせていただいた分もあり、ご発表の講師の方々には大変ご協力を賜りましたこと、紙面をお借りしてお礼申し上げます。

ボツワナでは記録管理の総合アプローチの実施に着手しているようにアーキビストが記録の作成者にもっと近づいていくこと、記録の作成者と二人三脚で進んでいくことがまさに求められているとのことです。これまでのアーキビスト像が揺らいでいるのは決して日本だけではないように思えました。「アーキビスト自身が変革していかなくてはならない」とICA事務総長のアルバダ氏は締め括りで述べています。

会場に参加することが出来なかったアーキビストの皆様にも情報が共有できることしたら、幸いだと考えております。